

今、少子化が進み「こどもまんなか社会」の実現のため、さまざまな動きが起きています。豊かで便利な世の中ではあっても、複雑で変化の激しい社会の中で、子どもたちが日々幸福感を持ちながら、逞しく生きる力を身につけていくにはどうしたらよいのか、ということがさらに問われる時代なのだと思います。

名寄市では、今年度から教育行政執行方針に「ウェルビーイングの向上」が計画の柱にすえられました。ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態であることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含む概念であります。その背景には、コロナの影響で体感した「生命」の尊さや、「つながり」の大切さ、いじめや不登校の深刻化など、社会構造の変化によって、子どもたちの抱えている困難が多様化・複雑化してきていることがあると思います。経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさや健康までを含めて捉える考え方が重要視されつつあり、教育が果たす役割と可能性は非常に大きいと考えます。

「ウェルビーイング」のあり方はそれぞれの国や集団・地域での文化価値によって求めるものが違ってきます。日本の社会・文化的背景に根差したウェルビーイングの向上のためには、どんな教育が求められるのでしょうか。中央教育審議会では、自己肯定感や自己実現などの獲得的要素と、人とのつながりや、利他性、社会貢献意識などの協調的要素が一人の人間に調和的に育まれる教育が必要であると述べています。最大の課題は、大人がこれまでの教育をいかに転換できるかという点かもしれません。これまでは知識や技能を正確に習得できる教育が重視されてきました。しかし、これからの時代、知識や技能だけが必要とされる教育はAIやロボットが代替してくれます。人間には未知の状況においても他者とともに学びを深め、自分たちの進むべき方向性を見つけ、自分たちで舵取りをしていくための学習が必要なのだと思います。また、個人と社会のウェルビーイングを目指した自己の確立に向け、子どものときから自己の生き方を考えていく資質や能力の育成が求められていくのだと思います。

子どもたちのウェルビーイングの実現には、それを支える器となる周辺環境がどうなっているのかも注視したい点であります。子どもたちを取り巻く保護者や教職員、地域の方など子どもに関わる人のウェルビーイングの確保ももちろん大切です。これらの方たちとの良好で信頼のおける関係性があるって、自立と共生を支える仕組みが向社会性につながり、好循環を生むのだと思います。「子育ての負担は全てその家族で担うべきだ」と決めつけるのではなく、社会全体で支える考え方が教育や福祉のあり方を大きく変えていくのではないかと考えています。地域での活動を通じて人々とのつながりや関わりを作り出し、それによって幸せに暮らせる場所を守っていくことが、持続的な「こどもまんなか社会」の実現につながっていくのではないかと考えるのです。